

1 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

(1) 外国語活動の目標

外国語に慣れ親しむ中で、いろいろな人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、日本と外国の言語や文化の違いを知り、それらを尊重しようとする態度を育てる。

(2) めざす児童像

- ・外国語による言語活動を楽しむ子（かしこい子）
- ・外国語や身振りを使って自分の意思を積極的に表現したり、相手の話をよく聞きその意思を理解したりしようとする子（たくましい子）
- ・外国と日本の文化の違いを理解し、相手のことを思いやりながらかわる子（やさしい子）

(3) 教職員・児童・保護者による評価（アンケート）の結果

下記のアンケートの項目は、上記の「外国語活動の目標」及び「目指す児童像」に関連する項目を掲載している。

※評価欄には令和2年12月に教職員、児童、保護者に実施した学校評価の平均を掲載。

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

<教職員アンケート>

	内 容	評価
1	児童同士の学び合いを促進する活動を積極的に取り入れた。	3. 2
2	発達段階に応じた「聴く力」、「話す力」等の学習技能を身につけさせている。	3. 0
3	体験活動によって、コミュニケーション力をはじめとする人間関係調整力の高まりを感じる。	3. 3

<児童アンケート>

	内 容	評価
1	授業中は、積極的に話し合ったり、発表したりしている。	3. 1
2	授業は分かりやすい。	3. 3
3	学校での授業で英語の力（話す・聞く・読む・書く）がついてきているように感じる。	3. 5

<保護者アンケート>

	内 容	評価
1	小中一貫教育の取組は学力の向上に効果がある。(外国語活動を含む)	3. 3
2	学校は、子どもたちの人間関係に留意し、思いやりのある行動ができるように指導している。	2. 8
3	子どもは学校へ行くのが楽しいと言っている。	3. 1

○昨年より評価が高くなった項目

- (1) 教職員評価：体験活動によって、コミュニケーション力をはじめとする人間関係調整力の高まりを感じる。(3. 1→3. 3)
- (2) 児童評価：学校での授業で英語の力(話す・聞く・読む・書く)がついてきているように感じる。(3. 2→3. 5)
- (3) 保護者評価：小中一貫教育の取組は学力の向上に効果がある。(外国語活動を含む)(3. 2→3. 3)

○「友達に自分が言った英語が通じてうれしかった」「間違っても恥ずかしくなくなった」など、児童の感想からも、英語でのコミュニケーションに自信がついたことが伺われる。

2 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果の公表に関する情報

今年度も、校務分掌に外国語活動担当を位置づけ、担当は特別の教育課程に基づく教育の実施に向けて、指導計画、日課編成、教材準備について校内で調整にあたっている。また、ALTの学年配置については、町教育委員会と協議し、全学年の外国語活動を支援できるように適切な配置計画を作成した。

ALTは本校に勤務し19年となる。保護者や地域の方とも顔見知りで、積極的にコミュニケーションを図っている。学校においても、授業だけでなく、給食や掃除の時間、学校行事などにも参加をし、児童と交流をもっている。そのような様々な場面で、児童に英語で話しかけ、コミュニケーションをとることで、児童も英語に対して抵抗もなく、楽しんで交流をしている。英語を普段使いできる環境ができており、コミュニケーション力を高めていく上で、環境が十分整っていると考える。

アンケート結果や普段の授業の見取りから、外国語でのコミュニケーションによって、他者と関わることのよさを改めて感じたり、より積極的に関わったりする姿も見られている。そのことは、本校が掲げる「めざす児童像」の具現化につながっていると感じている。